



たんぽぽだより

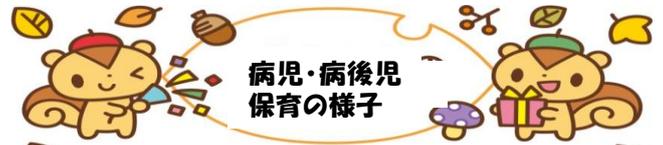


令和2年10月号 No.63
 砂川市病児・病後児保育施設
 Tel 0125-54-2278

澄んだ空気が気持ちのよい季節となりました。秋は気温差が激しく風邪をひきやすい時期です。日中は暖かいですですが夕方になると冷え込んできますので、薄手の長袖と上着など、暑さにも寒さにも対応できるといいですね。

今年は、インフルエンザの患者数が昨年度の同時期に比べて、1000分の1以下という低い水準になっているそうです。新型コロナウイルス感染症対策で、手洗い・手指消毒、マスクの着用の習慣が広がり、ひとり一人の衛生意識の高まりが影響しているのかもしれないね。

新型コロナウイルス感染症の予防のために実践している対策は、インフルエンザやその他の感染症にも効果がありますので、引き続き予防の取り組みを徹底しながら、今月も元気に過ごしていきましょうね！



今月は、急性上気道炎、発熱症状などでの利用がありました。

保育室壁面



10月10日は目の愛護デー

こんな行動があったら 要注意

- 目を細めたり、しかめたりする
- 横目でものを見ることが多い
- テレビなど、極端に近づいて見る
- 必要以上にまぶしがる

子どもがかかりやすい目の病気

ものもらい

ブドウ球菌による炎症。不潔な手で目をこすると感染します。まつげの根元が赤くはれて痛みます。重症化した場合は切開して膿を出すことがあります。



結膜炎

細菌やウイルス性のものと、アレルギー性のものがあります。まぶたのはれ、白目の充血、かゆみ、涙目、目やにが出るなどの症状が出ます。アレルギー性であっても二次的に感染しやすいので、抗生物質の点眼薬を処方されることもあります。

視力の発達に重要な乳幼児期

子どもの目は、日々遠くのものや近くのものを見たり、動くものを追ったりするなかで発達が促されます。生まれたばかりの時は0.01くらいだった視力は、生後6週ころからぐんぐんと発達。5歳で1.0以上になり、その後発達の程度は緩やかになり、8~10歳くらいで完全に止まります。ですから、乳幼児期に、なんらかのトラブルで視力の発達がうまくいかなかった場合、その後視力を伸ばすのはとても難しいのです。日ごろから子どもの目の状態に注意を向け、おかしいと思ったら、早めに受診しましょう。

